

休日は散策日和 「埼玉県・川越市 時の鐘」

埼玉県南部に位置するこの町は、江戸時代には舟を利用した物流で栄えた。現在は、蔵造りの建物が多く残る「小江戸」として、埼玉県を代表する観光地となっている。

西武新宿線の本川越駅で下車し、繁華街沿いを15分ほど歩くと、通りの両脇に蔵造りの建物が見えてきた。中は和菓子屋だったり、酒屋だったり、さまざま。どの店舗も所せましと観光客が動き回る。

右手を見ると、川越のシンボルとも言える「時の鐘」がそびえ立っていた。周りには記念撮影をする人が後を絶たない。最上部に鐘が付いた、高さ16メートルのこの塔は、江戸の初期に造られた。焼失・再建を繰り返し、現在の塔は明治27年に再建されたもの。今も毎日6時、12時、15時、18時の4回、川越の人々に時を知らせている。環境省選定の「残したい日本の音風景百選」に選ばれている。

真下に入り上をのぞき込んでみると、「ゴーン」という音が。15時の鐘だ。高い秋空に、鐘の音が突き抜けるように響く。少し間が空いてもう一回。つい見上げてしまう。

駅へ戻る途中で、「喜多院」に立ち寄ることにした。緩やかな坂を上ると、大きな門が見えてくる。この寺院は、天長7(830)年に建立され、1200年もの長い歴史を誇る。境内には、江戸城の別殿を移築した「徳川家光公 誕生の間」など、国指定の文化財が数多く残る。

本堂の階段の途中では線香が焚かれ、その煙を体に浴びようとする人が集まる。七五三のお参りをする家族も見られる。少し色づき始めた木々の葉と、七五三の着物が華やかさを感じさせる。「小江戸」川越は、音と香り、菓子の優しい味、そして歴史ある建物と、あらゆる感覚を満足させてくれた。ぜひ訪れてみてほしい。

「海員だより」